

はじめに



東京都は、「東京都平和の日条例」で、3月10日を「東京都平和の日」と定め、平和の意義を確認するとともに、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施しております。

令和7年度は、令和8年3月10日、東京都庁において「第36回東京都平和の日記念式典」を開催いたしました。

記念式典の冒頭に東京大空襲をはじめ戦災で亡くなられた方々を追悼し、世界の恒久平和を願って黙とうを行い、厳粛な雰囲気の中で式典が執り行われました。

式典に引き続き、東京都交響楽団による記念演奏を行い、「追悼と平和への祈り」の気持ちを新たにしました。

また、記念行事の一環として、東京都芸術劇場、練馬区立大泉学園ゆめりあホール、八王子市生涯学習センター(クリエイトホール)、東村山市中央公民館において、「東京空襲資料展」を開催いたしました。

本報告書は、今回の東京都平和の日記念行事についてまとめたものです。

本書が平和の大切さを確認していただくための一助となれば幸いです。

結びになりますが、今回の東京都平和の日記念行事の実施にあたり、御協力をいただいた皆様に心から御礼を申し上げます。

令和8年3月

東京都



- 2 -



第一章 記念式典





概 要

第36回東京都平和の日記念式典

日時 令和8年3月10日(火)
午後2時～午後3時15分

場所 東京都庁第一本庁舎 5階 大会議場

プログラム	午後1時00分	開場・受付
	午後2時00分	記念式典
	午後2時30分	休憩
	午後2時45分	記念演奏

※インターネット中継（東京動画）を実施

式次第

*** 黙とう**

*** 国歌斉唱**

*** 主催者挨拶**

東京都知事
東京都議会議長

小池 百合子
増子 博樹

*** 来賓挨拶**

駐日外交団長
東京空襲被災者代表

駐日エリトリア国特命全権大使
エスティファノス・アフオワキ・ハイレ閣下
小町 悦子様

Memorial Ceremony Program



The 36th Tokyo Metropolitan Peace Day Memorial Ceremony

■ **Date and time** Tuesday, March 10, 2026 2:00PM - 3:15PM

■ **Venue** Tokyo Metropolitan Government Building No.1
5th Floor, Main Conference Hall

■ **Program** 1:00PM Open
2:00PM Memorial Ceremony
2:30PM Intermission
2:45PM Memorial Concert

※ Live broadcast on the Internet
(Tokyo Metropolitan Government Official Video Channel)

Memorial Ceremony

Silent Prayer

National Anthem of Japan

Greetings from the Organizers

Governor of Tokyo

KOIKE Yuriko

President of the Tokyo Metropolitan Assembly

MASUKO Hiroki

Messages from the Distinguished Guests

Dean of the Diplomatic Corps in Japan

Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of the State of Eritrea

H.E. Mr. ESTIFANOS Afeworki Haile

Representative of the Tokyo Air Raid Victims

KOMACHI Etsuko

主催者挨拶



東京都知事

小池 百合子

本日ここに、御遺族の皆様、都民の皆様、御来賓の皆様をお迎えし、「第36回東京都平和の日記念式典」を執り行うに当たり、御挨拶を申し上げます。

先の大戦で東京は、度重なる空襲により、甚大な被害を受けました。昭和20年3月10日、下町地区を中心に襲った大空襲では、一夜にして10万人ともいわれる尊い命が奪われました。

空襲で焦土と化した、当時の悲惨な光景と、家族や友人を失った悲しみは、今なお、被災した方々の心の中に、深く刻まれています。

犠牲となられた方々の御無念、そして御遺族の皆様の深い悲しみに思いを致しますと、痛惜の念に堪えません。

今日の平和と繁栄は、多くの尊い犠牲と、御遺族や被災された方々の苦難の歴史の上に築かれたものでございます。戦争を経験したことがない世代が社会の大半を占めるようになった今、戦争の悲惨な記憶を風化させることなく、しっかりと語り継ぎ、平和の大切さを伝えていかなければなりません。

東京都は、平和の意義を確認し、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓い、3月10日を「東京都平和の日」と決めました。都立横網町公園内に祈念碑を建設し、その内部には「東京空襲犠牲者名簿」を納めております。

本年は、新たに141名の方々のお名前を追加し、合計81,724名の方々が登載されました。

世界は激動の最中にあります。他国への侵攻、地域紛争、テロ行為などにより、戦後築き上げてきた国際秩序は大きく揺らいでいます。さらに、深刻さを増す気候変動、エネルギー・食料危機など、私たちは幾重の困難に直面しております。こうした難局を乗り越え、平和な世界を未来に引き継いでいくことこそ、今を生きる私たちの責務でございます。

私は都知事として、日本の首都・東京を、より強靱で、誰もが心豊かに暮らせる、夢と希望にあふれた都市へと進化させてまいります。そして、持続可能な世界の実現に全身全霊で取り組んでいくことを、ここにお誓い申し上げます。

犠牲となられた方々の御冥福をお祈り申し上げるとともに、御遺族の皆様の御健勝と御多幸を心から祈念し、御挨拶いたします。

主催者挨拶



東京都議会議長
増子 博樹

本日ここに、御遺族をはじめ、平和を願う都民の皆様とともに、第36回「東京都平和の日」記念式典を執り行うに当たり、東京都議会を代表し、御挨拶を申し上げます。

幾多の悲しみをもたらした先の大戦が終わり、今年で81年の歳月が過ぎ去ろうとしています。

戦禍の中、国の内外において、多くのかけがえのない命が失われましたことは、私たちにとって、永遠に忘れることのできない深い悲しみであります。

東京は、度重なる空襲を受け、とりわけ昭和20年3月10日未明の大空襲では、一夜にして多くの尊い命が犠牲となり、いたるところ焼け野原と化しました。

亡くなられた方々の御無念と、御遺族の皆様のお心の中を拝察しますと、今なお万感胸に迫るものがございます。

今日、私たちが享受する平和と繁栄は、歴史に刻まれた、幾多の惨禍と、尊い犠牲の上に築かれたものであります。

昭和から平成、そして令和へと時代が変わり、戦後生まれの世代が大半を占めるようになりましたが、私たちは、このことを決して忘れてはなりません。

一方で、世界に目を転じますと、依然として政治、経済、軍事にわたる国家間の衝突は絶えず、平和を脅かす状況が続いています。

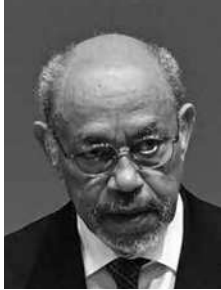
今こそ、国際的な相互理解と信頼関係をこれまで以上に深め、世界が直面する様々な課題に共に取り組み、平和な世界を実現していくことが強く求められております。

東京都議会といたしましても、戦争の惨禍を再び繰り返すことのないよう、平和を求める都民の願いを込め、全ての国々による核兵器の廃絶を訴えるなど、世界の恒久平和の実現に取り組んでまいりました。

今後とも、あらゆる人々がお互いを尊重し合い、安心して、心豊かに暮らせる社会を築き、未来永劫継承していくことが、犠牲となられた方々に対する私たちの責務であることを深く胸に刻み、一層の努力を重ねてまいります。

結びに、戦災で犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、御列席の皆様方の御健勝、御多幸を心より祈念申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶



駐日外交団長

駐日エリトリア国特命全権大使

エスティファノス・アフォワキ・ハイレ閣下

東京都知事
東京都議会議長
東京空襲被災者代表
御列席の皆さま

私の国の言葉で、午前、午後そして夕方にかけて使う挨拶の言葉で「セラム」という言葉があります。これは平和を意味しています。ですからこの言葉で挨拶させていただきます。

セラム(こんにちは)

皆様ご存じのように、外交術は、古くに確立されたコミュニケーションの柱のひとつであり、平和、貿易、安全保障を管理するために国家間で築かれてきました。そして人類の歴史において、国際外交活動の失敗が、国家、地域、さらには国際レベルでの戦争や紛争の主たる要因となってきました。

第一次世界大戦および第二次世界大戦は、人類の近代史において、この事実を示す生きた証です。これらの戦争、そしてその後続いた紛争によって、数百万人もの人々が命を落とし、傷を負い、あるいは故郷を追われました。その中には、罪なき子どもたちや男女の犠牲者も含まれていました。ここ東京でも、まさに私たちが立っているこの場所で、数え切れないほどの命が悲劇的で壊滅的な形で失われました。

今日、世界の大国同士の関係性が急速に変化する中、多くの政治家や政治学者が、差し迫った第三次世界大戦の危険性を公然と指摘しています。

このような人類史の重大な局面において、本日、ここ東京都平和の日記念式典で、先の大戦で犠牲となった罪なき人々を追悼するにあたり、第二次世界大戦の惨禍を経験したこの歴史ある都市、そして国において外交官を務める私からのささやかなメッセージは、極めて簡潔で明確です。

国の内外や地域における、建設的な外交を通じた平和構築こそが、人類にとって唯一、希望ある未来なのです。

この地球上のどこであれ、いかなる形であれ、今この瞬間に生じているあらゆる戦争や紛争に、平和が勝利し、広がり続けますように。過去は未来であり、その逆にはなりません。権力を持つ者は、過去に学ばなければならないのです。

セラム(平和あれ)

Messages from the Distinguished Guests



Dean of the Diplomatic Corps in Japan

Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of the State of Eritrea to Japan

H.E. Mr. Estifanos Afeworki Haile

Honorable Governor of Tokyo,
Chairperson of the Tokyo Metropolitan Assembly,
Representative of Tokyo Air Raid victims,
Ladies and gentlemen,

In my language, we greet in the morning, afternoon, and in the evening with the word “Selam”. It means peace. So allow me to say Selam,

As we all know, the art of diplomacy is one of the pillars of communications, established long time ago, which was built between nations and nation states to manage peace, trade and security. And in the past history of mankind, the failures of international diplomatic activities have been the main cause of wars and conflicts - be it at national, regional and international levels.

World War I and World War II are living testimonies to this phenomenon in the modern history of mankind. Millions of people have been killed, maimed or displaced from their homelands as a result of these wars and conflicts following it - which also has included but did not exclude innocent children, men and women victims. Here in Tokyo, on the very ground where we stand today, countless lives were lost in a tragic and devastating way.

When the paradigm of relations between the global powers is currently changing remarkably fast, many politicians and political scientists are openly predicting the danger of the imminent World War III.

Therefore, in this crucial moment of human history when we are remembering the innocent lives that perished in the last world war at the Tokyo Metropolitan Peace Day Memorial being held today, my humble message as a diplomat serving in this historic city and country which has gone through the horrors of the Second World War is very simple and clear.

Peace building through a constructive national, international and regional diplomacy is the only promising future for mankind.

May peace prevail over wars and conflicts now, where and however they are happening in our planet. The past is the future not the other way around. It is a must for powers to learn from the past.

Selam

来賓挨拶



東京空襲被災者代表

小町 悦子様

皆さんこんにちは。御紹介頂きました、小町でございます。東久留米市から参りました。昭和7年生まれ、今94歳です。僭越ではございますが、空襲で体験した当時のことについてお聞き頂きたいと思います。

昭和19年、私の通っていた女学校は、国鉄中央線の武蔵境駅と、西武新宿線田無駅の間にあり、近くに中島飛行機製作所の大きな工場がありました。

空襲のサイレンが鳴ると、生徒達は急いで防空頭巾を被り、救急袋を下げ、カバンを持って一斉に下校します。家庭に早く帰るのが一番安全という学校の措置でした。

当時、私は女学校1年生でした。

その日もサイレンを聞き、同級生4、5人で一緒に、急いで田無駅に向かいました。

学校から駅までのほぼ中間に森があり、その森に丁度差し掛かった時に、B29の爆音が聞こえました。突然「ビューン」という風を切る音のあとに「ドカーン」と爆弾の炸裂する音がしました。耳をつんざくような音で、「私達が狙われている」そう思い、急いで雑木林の中に隠れ、低い場所に身を伏せました。みんな無言でした。

B29は三機ずつの編隊を組んで頭上を通り過ぎて行きます。その度に大きな爆弾を落としていきました。

爆音と、炸裂のたびのドカーン、ドカーンという音。少し間をおいてばらばら、ばらばらという落下物の音を、何回聞いたことでしょう。

艦載機らしい小型の飛行機は機銃掃射をかけるらしく、機関銃を乱射する音が聞こえます。地上からはドーン、ドーンと高射砲の音、それに地響きが聞こえるので、私達は耳と目を塞ぎ、長いこと敵機の去るのを待ちました。

友達は悲鳴を上げ、「助けて!」を繰り返し、最後は「南無阿弥陀仏」を唱えました。

どれ程の時間だったでしょう。30分も続いたでしょうか。敵機は去り、静かになりました。

顔を上げると、みんなの顔が泥だらけになっていました。それでも怪我した人もなく皆元気で助かったことが分かり、喜び合いながら、そして、「今日のは中島飛行機がやられたのね。あれだけ爆弾を落とされたんでは全滅でしょうね。」と話し合いました。

誰かが救急袋の中から炒った大豆を出して食べ始めると、みんなそれにつられて食べ始めましたが、目は涙ぐんでいました。

「私達、こんな時に一緒にいて助かったこと、一生忘れないようにしましょうね。」と一番背の低い悲鳴を上げてい

来賓挨拶



た青木さんはじめ、みんな約束の指切りをし合いました。

駅に向かう道すがら、敵機から電波妨害のためにまかれたアルミ箔のテープが、畑のあちらこちらに落ち、それからまわり、カリカリ、カリカリと音を立てて、日光に照らされ、まぶしく光っていました。

電車は運休になり、線路づたいに、私達とはとどと歩いて各自の駅まで行き家に帰りました。

翌日学校に行くと、幸いにも校舎は無事でしたが、学校の広い農園や栗林の中に爆弾の落ちた大きな跡があり、校庭にも穴があけられて、使用禁止の立札が立っていました。それから暫く学校は休校になりました。

その間、12月の始め、中島飛行機に動員していた上級生が、空襲のために避難して来た学校の防空壕で直撃にあり、4人が亡くなっています。

学校では「あの日を忘れない」と、80年経った現在も毎年慰霊祭が行われています。

爆撃を受け、友達と指切りして誓ったあの日のことは、忘れることは出来ない私の一生の恐ろしい思い出の一つです。

「欲しがりません、勝つまでは」

この合言葉で、衣食住全ての貧困を我慢してきた生活、戦争ゆえに日本中の人が耐えた時代でした。

私は、昭和7年、満州事変の時に生まれ、

日中戦争が始まった頃に小学校に入り、

小学4年生の時には、太平洋戦争が始まり、

中学2年の8月終戦となるまで、戦争に振りまわされ、我慢の多い青春時代でした。

しかし、80年、戦争もなく平和が続いたお陰で、豊かな時代になり、それにひたりながら幸せな暮らしをして、94歳の今を生きています。

平和な社会はお互いの努力から生まれると思います。

日本の平和は「日本の宝」

家族の平和も「家族の宝」だと思います。

世界情勢も最近不穏になっています。英知を持って平和を守っていく努力を皆様をお願い申し上げたいと思います。

甚だ勝手を申し上げましたが、御清聴ありがとうございました。

式典風景



会場全景



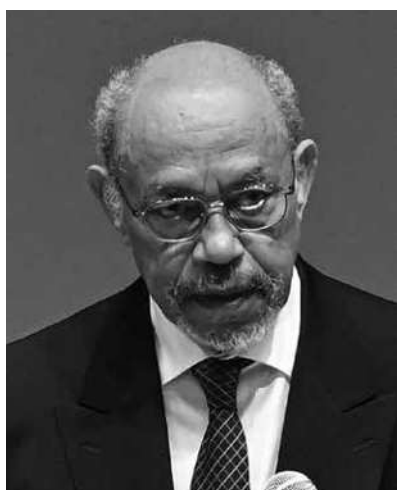
黙とう



東京都知事挨拶



東京都議会議長挨拶



駐日外交団長挨拶



東京空襲被災者代表挨拶



登壇者（主催者）



登壇者（来賓）

式典等風景



式典受付 (1F)



式典受付 (2F)



式典受付 (5F)



会場（ロビー）

記念演奏



第36回東京都平和の日記念演奏
「追悼と平和への祈り」
～東京都交響楽団メンバーによるアンサンブル～

日時 令和8年3月10日(火)午後2時45分～午後3時15分
場所 東京都庁第一本庁舎 5階 大会議場
演奏 東京都交響楽団

プログラム

- ◆ J. S. バッハ : G 線上のアリア

- ◆ モーツァルト : ディベルティメント ニ長調
K.136 より
第1楽章

- ◆ モーツァルト : 弦楽四重奏曲第17番 変ロ長調「狩」
K.458 より
第1楽章

- ◆ 岡野貞一 作曲、いとうたつこ 編曲: ふるさと

- ◆ 團伊玖磨 作曲、飯吉高 編曲: 花の街



Memorial Concert Program



The 36th Tokyo Metropolitan Peace Day Memorial Concert
"Mourning and Pray For Peace"
By the Members of the Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

- **Date and time** Tuesday, March 10, 2026 2:45PM - 3:15PM
■ **Venue** Tokyo Metropolitan Government Building No.1
5th Floor, Main Conference Hall
■ **Performer** Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

Program

- ◆ J.S.Bach : Air on a G String

- ◆ W.A.Mozart : Divertimento in D major,
K.136
I. Allegro

- ◆ W.A.Mozart : String Quartet No. 17 in B-flat major
K.458 "The Hunt"
I. Allegro vivace assai

- ◆ T.Okano : Furusato "My Home Town"

- ◆ I.Dan : Hana no Machi "Town of Flowers"

記念演奏



公益財団法人 東京都交響楽団 プロフィール

東京オリンピックの記念文化事業として1965年東京都が設立(略称:都響)。現在、大野和士が音楽監督(2026年度から芸術顧問、2028年度から桂冠指揮者)、アラン・ギルバートが首席客演指揮者(2026年度から特別客演指揮者/ミュージック・パートナー)、小泉和裕が終身名誉指揮者、エリアフ・インバルが桂冠指揮者を務めている。ペッカ・クーシストが2026年度から指揮者/ヴァイオリニストとしてアーティスト・イン・レジデンス、2028年度から首席指揮者に就任。ダニエーレ・ルスティオーニが2026年度から首席客演指揮者に就任する。

定期演奏会を中心に、都内小中高生のためのWelcome! オーケストラ(音楽鑑賞教室)、青少年への音楽普及プログラム、多摩・島しょ地域での出張演奏、福祉施設への訪問演奏の他、2018年からは、誰もが音楽の楽しさを体感・表現できる“サラダ音楽祭”での演奏など、多彩な活動を展開している。

「首都東京の音楽大使」たる役割を担い、これまで欧米やアジアで公演を成功させ、国際的な評価を得ている。

公式ウェブサイト <https://www.tmsso.or.jp/>

出演者

第1ヴァイオリン：矢部 達哉

ヴィオラ：村田 恵子

第2ヴァイオリン：遠藤 香奈子

チェロ：清水 詩織

記念演奏

